

「被告は真実を」父健一さん

'08/3/10



2005年11月、広島市安芸区で矢野西小1年木下あいりちゃん = 当時(7) = が殺害された事件の控訴審第3回公判が11日、広島高裁で開かれる。ペルー国籍のホセ・マヌエル・トレス・ヤギ被告(36)の被告人質問が予定されている。トレス被告が法廷で発言するのは1審の最終陳述以来で約1年9カ月ぶり、被告がどう語るのか注目される。公判を前に、あいりちゃんの父健一さん(41)は「真

実を語ってほしい」と切望した。

「思いは変わらない。あいりの最期を知るのは被告だけだから」。極刑を求めている健一さんは「公判が進むごとに被告が発言する場は少なくなる。貴重な機会をうそで無駄にしてほしくない」と投げ掛ける。

1審で「悪魔の仕業」などと繰り返した被告には、批判の声が少ない。健一さんは「うそつきのまま刑罰を受けるのか。真実を話して受けるのか。大きな違いがある」と強調。「自らの名誉回復のためにも矛盾のない言葉を。周囲の批判を和らげ、母国ペルーで暮らす親や子どものためでもある」と言う。

1審判決は無期懲役。「犯罪が凶悪化、巧妙化している。過去の裁判に捕らわれず、極刑で臨んでほしい。時間はかかるかもしれないが、それが犯罪抑止につながると思う」と訴えた。

【写真説明】 犯罪被害者を支援する団体の関係者らを前に講演する健一さん(2月26日、広島市中区の県警本部)